



「住民主役」で行政改革を進める・・・熊本県甲佐町

甲佐町は、財政健全化に向けて職員の数減らし行政改革を断行した町として知られています。今年2月大分県日田市に続いて視察しました。人口は約11,000人、世帯数4,100。八丈町とほぼ同規模なので参考になると思います。

●**行政改革** 全国的に合併が進んでいた時期に、隣町との合併が白紙になり、独自の町づくりを選択しました。町長は、住民と行政がともに考え知恵を出しあう「協働」の精神を重視しながら、きびしい財政状況と社会情勢の変化に対応するため、2005年度から行財政改革をスタートさせました。

●**職員・議員の削減** 職員は146人。退職後の補充をしないことなどで、5年間で110人にまで削減しました。議員数も16人から12人へ削減。議員・三役の報酬や職員の給与、各種手当のカットを実施し、事務経費の節約も徹底して行ないました。しかし、職員の削減は、人口が減り産業が衰退する町の雇用の場を失う側面もあり、住民からは職員募集への要望も強いそうです。



●**民間活力の導入** 職員数や給与の削減などで行革をすすめ、さらに町の財政負担を軽くするために、町立幼稚園を廃園し、養護老人ホームと保育所、さらに給食センター業務も民営化しました。町職員はいったん行政職に移行し、出向という形で対応しながら徐々に職員を減らしていくようにしました。

●**休日にも窓口業務を** 職員同士で勤務時間を組みなおす工夫をしながら、町税の収納ほか住民票や各種証明書の発行などほとんどの業務を対象とした休日の窓口業務を行っています。税金の徴収率はほとんど変わらないようですが、窓口サービスは、住民に大変喜ばれているそうです。



●**あらたな取り組みは** こうした行財政改革で確保された財源で、子育て支援、定住促進、特産品開発を重点事業として取り組んでいます。子育て支援では、保育料の補助として私立保育園への支援、子ども医療費の助成、出産祝い金（第3子以降一人あたり10万円）の支給、奨学金の貸与などを行っています。定住促進策は、あらたに土地を買い住宅を新築した人に、条件により15万円～100万円の助成金を支給するというもの。熊本市へのアクセスが近いことを利点にベッドタウンとしてアピールしています。陸続きならではの取り組みだと思いました。特産品開発は、開発事業者や商工会、観光協会に補助金をだし、甲佐ブランドの確立をめざし品質向上に努力しているそうです。ちなみに、私たちも町一押しの新しいお菓子「マシュマロ饅頭」を試食しました。



●**改革の一方で** 5年前に約22億円をかけて庁舎を建設しました（写真上）。また、合併がなくなったために、翌年には新たに議会棟が建てられました。執行部と議員が対面する本格的な議場で、

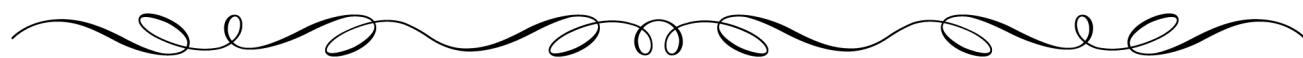
次ページへ続く

前ページより続く

天井は高く、イスは固定式、町の議場とは思えないような豪華な内装でしたので（写真下）、これまでの行革の努力とはそぐわず、ぜいたくすぎるのではないかと思います。

●八丈町の行革は 昨年から例規集の電子データ化など事務の改善が進んでいます。大きな赤字を抱える企業課では職員の削減も実施しました。4年前には議員数を16から14に削減。一方、中学生までの子ども医療費を無料化し、給食センター業務の民営化も行ない、住民サービスの向上をはかっています。ただ、職員や管理職の給与は国の基準に従って減額されているだけで、これまでに独自の削減策は出されていません。また、私が訴えた議員の視察や旅費についての改善も進んでいません。議員報酬もそのままです。

行政改革への歩みは自治体ごとに事情が異なるため単純に比較はできませんが、他の市町村を視察することで、遅れている部分が浮かび上がってきます。その部分を改善するよう訴えていくことが、議員視察の意義のひとつだと考えています。



補正予算の審議より（発言議員の敬称略）

●国民健康保険税の滞納 前年度末で滞納額1億5千万円。町はこれまで以上にきびしく徴収する努力が必要だとし、管理職全員で滞納者を直接訪ねるくらいすべきだと発言。町は、実行しているが悪質な滞納者もいる。従業員に滞納がある場合には社長に協力を依頼するなどし、あらたな滞納を出さないよう工夫していると答弁。（六郎、博文）

●野球場建設をめぐる 3年後の国体をめざして建設が進められている南原の野球場については質問が集中。まず、八丈の雨対策については、人工芝の下に浸透の溝と柵を設置するのではほ心配ないと答弁。また、国体の後は、プロ野球の練習場としても使える規格になっているので誘致も考えたいとのことでした。このほか維持管理費はどれくらいか、管理は野球連盟に任せるとかなどの質問がありました。（土屋、睦男）



●庁舎建設 入札は何社あったか、落札金額などの質問、コウモリがいたことで工事に変更されたことへの疑問、また庁舎建設費が35億円もかかることへの問題点も指摘されました。これに対し町は、入札の過程を説明した上で、庁舎建設には補助金が出ないので、17億円の基金を積み立ててきたこと、基金の組み換えや積み増しでさらに10億円以上基金を増やすこと、将来の借金となる起債は4億円以下にとどめることを明らかにしました。（山口、六郎、睦男）

●子ども手当を支給 これまで児童手当を受けていた人を含め、支給対象者は542人になります。私は、保育料や給食費などの未収金を回収する絶好の機会なので、通常振り込みで行われるところを滞納者については現金支給し、滞納分を払うよう促せないかと提言しました。実際に富山県の朝日町では、現金支給し直談判して払ってもらっているそうです。町は、滞納者に対しては同様の対策をとりたいと答えました。（幸子）



●子宮頸がんの予防接種 子宮頸がんの予防接種に全額または一部を助成している自治体があるが、町も取り組むべきだと指摘がありました。町は、小6から中2までの女子生徒を対象にワクチン接種を助成した自治体に、都が1/2を補助することになっているので、前向きに検討したいと答弁しました。町立病院もぜひ進めていきたいとのことなので、町の早い対応を期待したいと思います。（博文）



2010年6月議会 一般質問

<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>



1. 畜産および酪農の存続について町の見解を問う

農協の牛乳工場が閉鎖されるのを機に、町は農家に対し畜産への転換を促しました。酪農家は2戸に減少した一方で、民間会社により牛乳工場は継続され、学校給食への参入の実現や新しい商品開発などにより将来への展望も見えてきました。食育や地産地消、地域の雇用に貢献している現状を踏まえ、今後の畜産酪農業の発展のために、町の対策・支援が必要だと思えます。

(1) 後継者を育てる観点から、新規参入が可能になるような条件を整備する必要があると思えますが、町はどのように考えていますか。

産業観光課長 酪農・畜産の新規参入は、初期投資がかかり経済的負担は大きいと思われます。まずは定住してもらい、既存の酪農家などの協力によりヘルパー研修などの受け入れ体制をつくり技術を修得してほしい。その後段階的に施設整備、技術指導などを関係機関と連携して支援したいと考えます。



再質問 島外者にとっては定住の壁は厚いので、住宅の優遇策や他の農業者と同様の支援体制がつかれないか。

産業観光課長 既存の農家の協力があれば可能と考える。

2. 島の景観を維持するために石垣を積極的に取り入れる努力を

今、全国的に観光が低迷していますが、観光客でにぎわっているのはその土地独特の歴史や食べ物、自然景観が守られているところです。八丈島の守るべき多くの観光資源のなかで、玉石垣と同様に島の独特の景観をつくらせている石垣は注目に値します。自然石を利用した石垣は島の町並みとしてふさわしく、積極的に残してほしいと思えます。

(1) 公共事業を行う場合、周囲の景観を損なわないようできるだけ石垣を敷設する考えはありますか。

(2) 個人が新しく施工する場合や施工しなおす場合に工事費を一部負担するなどして、町の景観づくりを進める考えはありますか。

企画財政課長 国庫補助や都補助の公共事業については補助事業の場合細かな審査があり、コスト面から取り入れられないこともありますが、町単独の箇所については積極的に採用したいと考えています。個人が施工する場合は、災害復旧の場合と同様、公共性の観点から町の補助は考えておりません。

議員提案で議員報酬の日割りを実現

先日国会で、国会議員の歳費の支給方法を日割り計算し、自主返納できるようにする「国会議員歳費法改正案」が全会一致で可決されました。昨年8月の衆議院選挙で当選した新人議員は任期わずか2日で、今年7月の参議院選挙では6日で、1ヶ月分の歳費全額が支給されました。この不公平を正すための改正案が成立したのです。

町でも以前から議論されていて、6月議会で議員提案によりこの問題を是正する条例が全会一致で可決されました。したがって10月の町議会選挙後は、新人議員には10月24日から30日の6日分が支給されることとなります(これまでは1ヶ月分が支払われていました)。経費節減、公平性の観点から、条例化されてよかったと思います。

ぶれいくたいむ・・・「島チャリ」の評判は上々

今、役場前駐車場の一角で一基の風力発電機がまわっています。このエネルギーを利用して観光客に貸し出されているのが電動自転車です。八丈島活性化協議会が、国交省の「建設業と地域の元気回復助成事業」から2000万円の助成を受けて実施している事業の一つです。1回の充電で約20キロの走行が可能で、坂の多い島で威力を発揮し坂上までらくらく行けると評判は上々。1日2500円が安いか高いかはともかく、自然エネルギーを利用した乗物は島の観光振興とイメージアップに役立つことでしょう。現在ある10台に「おじゃりやれ」「ごらごら」「いごごん」など八丈方言の名前がついているのも、親しみがあがり好感がもてます。晴れの日はこの乗物をおすすめしたいですね。



ふれあい牧場の観光利用をすすめる会が発足しました

3月議会で、私は「ふれあい牧場の観光利用を進めよう」という趣旨の一般質問をしました。前向きに検討するとの町の答弁に対し、後日いつからどのように牧場の再整備をすすめるのかと聞くと、町は6月2日に、担当職員と観光協会との会合の場を設けました。そこで、私が今の牧場の改善点と今後の展望を提案したところ、町は住民の要望をまとめる会をつくってほしいという意向を示しました。会の要望を受けて、出来ることから実現させていくということです。観光関係者や町職員など6人で構成される、チーム「牧場の会」は、月1回程度の会議を予定しています。

最初の会議では、休憩舎のトイレや老朽化した展示物の整備、またふれあい牧場の名に違わぬよう、牛との「ふれあい」の場をつくってほしいと要望することになりました。

町はすでに、展示パネルを作り直す作業を始めています。これからも魅力的な観光スポットになるよう、町と協力しながら実現に向け努力していきたいと思っています。

編集後記

議員生活も8年が過ぎようとしています。2期目は観光振興実行委員会の委員として改革に取り組んできましたが、思うように進みませんでした。しかし、欠航対策としてクーポン券ができたのは一歩前進だったと思います。観光協会の人事が一新され、観光業に携わる若い力が今後どのように島の観光に活かされていくのか、期待しています。

さちこのニュースレター
第三十一号 / 二〇一〇年八月
編集・発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子